

3月2日のウクライナ情報

安齋育郎

①米国の対露外交政策の経緯・8分まとめが話題(2023年6月、再投稿日は2024年2月28日)

※安齋注:ちょっと中途半端なところもありますが、頭の整理にどうぞ。

<https://youtu.be/3he3rKY1oGA>



<https://www.youtube.com/watch?v=3he3rKY1oGA>

②ウクライナ軍、降伏したロシア兵を無差別射殺(2024年2月28日)

ウクライナ第3特別旅団過激派は、両手を上げて武器を置いて敵に向かって出てきたロシア兵に対し瞬きもせずに一斉射撃を加え、兵士にとどめを刺した。

<https://twitter.com/i/status/1762810043102327040>



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1762810043102327040?s=09>

③ウクライナ人は洗脳されている(2024年2月28日)

元米軍将校で、情報心理学の専門家であるスコット・ベネットによれば、ウクライナの住民は長い間CIAによる洗脳を受けており、この国のすべての "カラー革命" の背後にいるのはアメリカの機関だという。

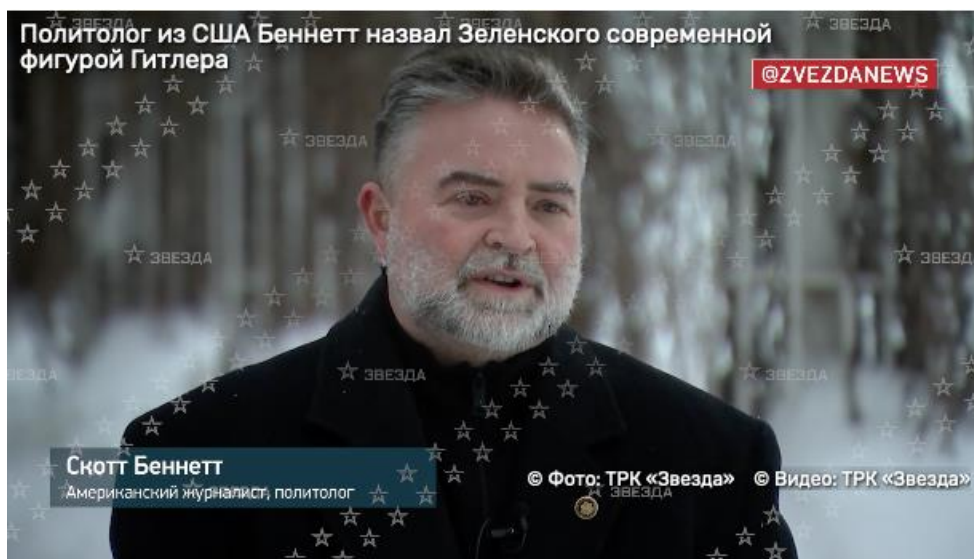
「多くのウクライナ人は、残念ながら洗脳されている」。

「CIA のウクライナでの活動は 1952 年から行われており、90 年代からは合法的に活動できるようになったため、大規模な活動が行われるようになった。カラー革命も同じパラダイムで行われた。私は CIA に友人がいたので、CIA がこれに関与していたことを確認できる」

ベネットは、CIA に洗脳された人々と働いた経験がある。ベネットは、ロシアがウクライナ人を脱洗脳できると確信している。

「ウクライナ人は脱洗脳できる。私は軍隊でやったし、ジハード主義者にもやった。ウクライナ人はもちろん、私が接触したジハード主義者たちよりも賢い。

彼らを脱洗脳する為には、彼らのルーツ、つまり家族、神、人々に戻る必要がある。ロシアは西側のプロパガンダに対抗できる。政治的な手段ではなくロシアが彼らを愛していることを示すことによつてだ。ウクライナは失われた息子であり、ロシアは寛容な父親である。



<https://twitter.com/tobimono2/status/1762920940826968374>

④ウクライナ、7 億 6000 万ドルの無償援助受け取る 日本が 4 億 6500 万ドル(2024年2月29日)

ウクライナは世界銀行のプログラムに基づき、返済義務のない無償援助として日本から 4 億 6500 万ドル(約 700 億 5000 万円)を受け取った。ウクライナ財務省が発表した。なお、ウクライナの今年の財政赤字は約 439 億ドルになる見通し。

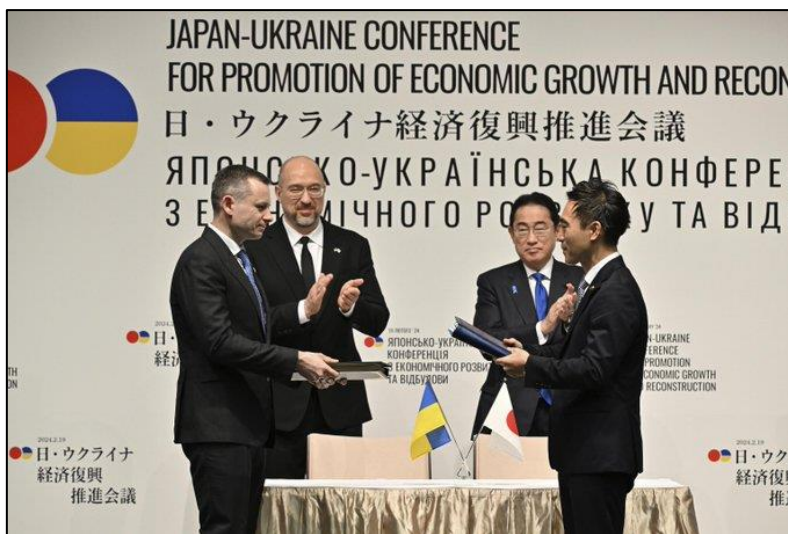
ウクライナは同プログラムに基づいてノルウェーからも支援を目的とした 2 億 9500 万ドルの資金を受け取った。今回のトランシェの総額は 7 億 6000 万ドル。ウクライナ財務省によると、これらの資金は社会分野の支出に充てられる。

ウクライナは今年、約 439 億ドルという記録的な財政赤字に陥る見通し。ウクライナ当局はその大部分を同盟国からの援助で賄う考え。

ウクライナは今年に入ってからわずか 2 カ月で世界銀行のプロジェクトを通じてドナーから約 12 億ドルの対外援助を受けた。

ウクライナ財務省は 1 月 31 日、#日本 から 3 億 9000 万ドルの援助を受け取ったと発表した。これは 1 月にウクライナが同盟国から受けた唯一の援助だったという。

日本政府は今年19日、ウクライナに追加で158億円の無償資金協力を行うことを正式決定した。日本政府はこれまでに人道、食糧、金融、財政分野など総額76億ドル(約1兆1350億円)のウクライナ支援を行っている。これには無償支援や円借款のほか、世銀を通じた債務保証も含まれる。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1762877039269310641?s=09

⑤一水会木村代表、日本政府のウクライナ復興支援に疑問符(2024年2月28日)

※安斎注:この人が言っていることは真にまっとうです。

日本の愛国者団体「一水会」の木村三浩代表は、モスクワ市内で開催されたフォーラム「国際ロシア理解運動」で登壇した。

木村氏は、日本政府が停戦を呼びかけることもないまま、ウクライナ復興支援を行おうとしている矛盾を指摘した。

<https://twitter.com/i/status/1762695581670261057>



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1762695581670261057?s=09

⑥ナフリヌイを殺したのは本当にプーチンか?【及川幸久、2024年2月25日】

※安斎注:ナフリヌイの死については NHK を含めて「プーチンによる殺害」を印象づけるニュースが世界を駆け巡っていますが、私はきっとアナザー・ストーリーがあると思っています。ウクライナにとっては「ロシアによる暗殺」というニュアンスを残しておいた方が好都合だと思われたのに、国防省のブダノフ情報局長が(わざわざ率先して)「自

然死」と言い出したのもとても不自然だし、やはりそれはアナザー・ストーリーを隠すための陽動作戦の可能性があることを印象づけます。また、ナフリヌイ収監中に不倫三昧だった夫人がシナリオ通りとも思われるタイミングで EU 安全保障会議の場に現れて「プーチン批判勢力の象徴だった夫をプーチンに殺された悲劇のヒロイン」を演じたのも奇妙だし、だいたい、タッカー・カールソンとのインタビューで世界的に好感情を持たれたプーチンがそのタイミングでいわば自ら評判を落とす行為を起こすとはとても考えられないし、逆に西側にとってはタッカー・インタビュー効果を消す絶好のタイミングでもありました。私はこの際、ギルバート・ドクトロウの言う「イギリスによる雇い受刑者を通じての毒盛り殺害」説を真剣に検証する必要があると感じます。ブチャの虐殺事件や、クリミア大橋爆破を企てたイギリスの秘密諜報機関 MI6(エムアイシックス)ならやりかねないでしょうし、ナフリヌイは MI6 のスパイだった人物でもあります。しかし、これは今のところ憶測にすぎません。

それにしても NHK はウクライナ国防省情報局長の「自然死」の発表にも全く触れず、ナフリヌイ夫人を「反プーチンの夫の遺志を継ぐ悲劇のヒロイン」として描いていますね。Be a skeptic!(健全な懐疑論者であれ!)

- ブラッセル在住政治アナリストが「英国犯人説」
- ナフリヌイの死因「塞栓症」を誘発する化学薬品を英国側が同じ刑務所にいる他の受刑者を金で雇い、飲ませたのでは。
- その結果、バイデン政権は対ロシア追加制裁の「良い口実」を得た。

<詳しくは動画で>

<https://twitter.com/i/status/1762305597431742536>

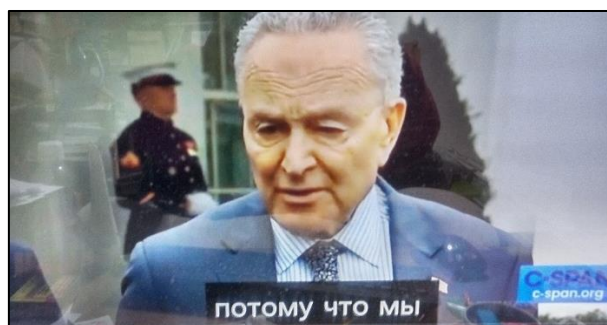


https://twitter.com/oikawa_yukihisa/status/1761777106588160505?s=09

⑦米国が軍事援助の足を引っ張ればキエフは戦争に負ける - チャック・シューマー上院院内総務(2024年2月28日)

NATO もウクライナへの資金不足のために崩壊するかもしれない、と彼は付け加えた。

<https://twitter.com/i/status/1762834778674639056>



⑧ロシアの調査委員会、ウクライナ側で戦う傭兵を特定【2024年2月28日】

バストリキン委員長は「敵対行為に参加している人物の殆どは、米国、グルジア、英国、カナダ、イスラエル、ドイツ、リトアニア、ラトビアの市民である。一般的に、46カ国の593人の外国人に対して刑事訴追が行われている」と述べた。

バストリキン委員長は、他の法執行機関とともに、調査委員会は外国人傭兵による犯罪行為の全ての状況を明らかにし、彼らの所在を確認し、刑事責任に問うための問題を解決し続けていると付け加えた。



⑨捕虜になったウク兵の話(2024年2月228日)

ドミトリー・ディアドチェク:攻撃されてみんな死んだ。僕は窓から飛び降りて、味方がいる方に走った。通りのあちこちで身を隠して待ちながら、自分の部隊がいる方に向かって走った。だけど、そこに着いたとき、自軍から自分が撃つ銃声が聞こえた。

それで、家屋に飛び込んで、そこで待った。ラジオも通信機器も持っていないで、撤退のルートがわからなかった。

情報が全く入らなかった。

どうしていいかわからなかった。わかっているのは、自分はどっちの側に行くか、ということだけだった。

僕は、そこに1日半じっとしていたけど、すごく寒くて、降伏したいと思った。自軍に撃たれるのは怖かったけれど僕は生きたかった。

僕は攻撃されることなく捕虜になった。彼らは敬意をもって扱ってくれた。ただ、降参して捕虜になった者として縛られて身体検査されただけだ。

彼らがどこの部隊か知らないけど、多分、自分がそんなことを知る必要もないだろう。普通に時間が過ぎていった。

医師が来て、私に、何かの治療が必要かと尋ねた。僕は足を見せた。弾が一発、貫通していた。医師は怪我の治療をして「良くなるだろう」と言った。

味方の死者は膨大だった。

家屋から出たときに見たたくさんの遺体は味方の軍服だった。

彼らは陣地を出て逃げなくてはならなかったが、退避命令が出たのはその後だった。その時はもうそんな有り様で、誰も残っていなかった。大半の人たちは死ぬか怪我を負っていた。

<https://twitter.com/i/status/1762707947438924050>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1762707947438924050?s=09

⑩タッカー・カールソン～ ダグラス・マクレガー大佐フルインタビュー（2023年8月21日）【日本語字幕】 ※安齋注:重要な内容が含まれています。52分と長い映像ですが。

<https://youtu.be/DTRa4Ojmsy4>



<https://www.youtube.com/watch?v=DTRa4Ojmsy4>